

ユニセフ写真パネル展開催報告

作成: 岩手県ユニセフ協会

盛岡市プラザおでって 2017年3月9日~12日

花巻市妙園寺

3月17日~23日

アグネス大使 グアテマラ訪問 「見えない脅威と闘う、“最初の1000日”」



▲子どもの様子に見入る赤ちゃんづれのお母さん

▲県内のユニセフ活動紹介に聞き入る英語教師

●盛岡・花巻の2会場に500名に会場いただきました

コーヒーの産地として知られるグアテマラ。わずかながらも経済成長を続ける中米の中所得国です。しかし、国全体の貧困率は近年で上昇しており、5歳未満児のほぼ2人にひとり慢性栄養不良による“発育阻害”です。特に胎児期や乳児期に十分な栄養が得られないことで受けた体や脳へのダメージは生涯にわたって取り返しのつかない発達の遅れをもたらし、貧困が繰り返される要因ともなります。アグネス・チャン大使が栄養不良と闘うグアテマラ取材しました。

県内2会場で延べ500名来場され、ユニセフが支援している物資を手にとったり、紙袋づくりの児童労働体験・古切手の整理などのボランティアに参加していただきました。

～寄せられた感想の一部～

- 「ユニセフという言葉は知っていても、その中身は知りませんでした。写真パネルを見て、自分では何も出来ない子ども時代の大事な時、与えられた世界の中で一人でも少しでも良くなることを祈ります」「多くの人たちと考え、助け合いたいですね」
- 「子どもの貧困の現状が視覚からわかり、日本の子どもの現状と合わせて考え、複雑な気持ちになりました」など声が寄せられました。

未使用切手のご協力・会場でのユニセフ募金 20,524円 ありがとうございました。

●ユニセフ支援グッズ、児童労働体験、古切手セービングのボランティア活動コーナー



▲会場内でユニセフが支援しているグッズを展示 ▲



▲児童労働体験(インドの紙袋づくり)、古切手セービングのボランティア活動

<問い合わせ先：岩手県ユニセフ協会 電話：019-687-4460>